

かさおか

発行所

天理教笠岡大教会

かさおか編集掛
笠岡市用之江377
郵便番号714-0066
(0865)
電話 66-1311
FAX 66-1314



多古浦分教会

昭和4年6月2日 設立
昭和35年2月26日 神殿及附属建物増築
昭和47年11月26日 附属建物増築
平成10年4月5日 移転建築奉告祭

教祖百四十年祭 笠岡大教会活動方針

つながろう、おやさまのお心に。
つなげよう、信仰の喜びを。

活動
目標

ひながたを学び、そのお心を実践しよう。



立教187年
12月号

広島平和公園で 外国語パンフレット配布 海外部

11月17日(日)海外部主催で広島平和公園外国語パンフレットをいがけに行きました。

参加者は7人。公園内でおぢばに向かい世界平和を願ってよろよ八首を踊った後、約1時間2グループに分かれて歩き、11ヶ国18グループの人達に約30部配布させて頂きました。世界だすけに触れる楽しい時間を過ごしました。

(部長 上原 志郎)



パキスタンから観光に来た家族

参加者の声

新山邑分教会 三島 美保子
秋色に色づく広島平和公園で今年も様々な国の方々に出会わせていただきました。

平和の灯を背景に何枚も自撮りする男性。友人同士の2組のご夫婦。遠い小さな島から何日もかけて広島を訪れていた男性。

そんな方たちに声をかけ、手渡すパンフレットが英語と同じくらいにフランス語、ポルトガル語が多くなりました。英語は共通言語だけど、スペイン語



日本に住んで1年になる米国からの6人家族

のほうが得意な方もいて、「もつとスペイン語を勉強しよう!」と改めて思い、同じ班のメンバーさんとも話しました。

急遽参加させてもらったわたしの友人は、「平和を願う共通の思いがあるからか海外の方のこちらを受け入れてくれる感じがパンフレットを渡しやすかった。英語も教理も話せないけど出来るにいがけがあると知れてよかったです」と喜んでいました。

ある曲の歌詞にあるように、笑顔も世界の共通言語だと思います。笑顔であふれる世界を目指して、ますます言葉と笑顔を磨く日々を過ごしたいと思っています。

海外伝道講習会 開催

11月月次祭

海外部

海外部(上原志郎部長)は11月21日、張間道男先生を講師に迎え、大教会11月月次祭後に「海外伝道講習会」を開催。役員・部内教会長・よぶ、信者ら多数が受講した。

張間先生は、夫婦揃っての「海

外布教」を至上の使命と思うに至った経緯を述べられ、数十年に及ぶ変わらぬ思いを凝縮してお話しくだされた。講話内容は次の通り。

インドネシアという国は、国民の9割がイスラム教徒で、世界一のイスラム人口を抱える国です。そこに、おぢばの布教拠点があります。天理教インドネシア出張所、現地法人名は「ダルマバクティ テンリ インドネシア財団 (Yayasan Dharma Bakti Tenri Indonesia)」と言います。出張所の所長として5年半弱、務めさせて頂きました。

出張所長の御命をいただく25年前に、約3年余り、おぢばの海外部の派遣留学生としてインドネシアで勉強しており、その頃「海外布教は夫婦で共に」と親心をかけていただいて、家内と子供たちも一緒にいました。この時、家内が一卵性の双子を妊娠しており、現地で出産する予定で、私1人が先にインドネシアへ行きました。残った家内は、自分は初めての海外、どういところか全くわからない、不



募る思いを静かに
話される張間先生

安で仕方がなかったと、あとでその時の胸の内を聞かしてくれました。家族のビザはおりましたのですが、家内は不安が募ったのでしよう。切迫早産、前置胎盤、入院安静ということ、相談をして、おちばで出産をしたら出産というになりました。家内は、楽な出産をさせていたのですが、もともと貧血症で、産後その貧血がひどく、子宮の戻りも悪い、体もしんどいということ、4人の子育てに喜ばない、勇めなかったというのです。

その時、当時の海外部の上司の先生に相談をし、家内は先生に、自分は幼い頃に両親を亡くして親戚の家に預けられ、中学に入る前に子供のいなかつた張間の家に養女で入ったということと話したそうです。先生はそれをじつと聞いておられて、二親が早く亡くなる、子供ができない、そういう家のいんねんをよく考えて、しっかりと親につなぐように、また子宮の戻りが悪いのは、心を引き締めて通るようにお仕込みくださいました。

そんな時に双子の子供の1ヶ月検診があり、長女の心臓に異常が見つかった。心房心室欠損、肺動脈のつき方にも異常があるという診断でした。その時の家内の心は、もう海外に行くことなども考えられない、助けていただきたい一心で、おさづけを取り次ぐ。長女の手を握りしめながら。でも教祖の手は握っていなかったと話してくれました。

そんなある時、上司の先生の先ほどの言葉を思い出しながら、これは避けては通れない道、親神様、教祖の思召しにかなう道、自分の役目かもしれないと思つたのです。後から考えると、その時が、教祖が差し伸べてくださったている手に家内の心が触れた時だつたと思うのです。これが神様の思召しにかなう道なら、どんなことがあつても喜んで通らせていただきます。今だけではなくこれから先も、どんな形でも海外布教に関わらせていただきます。子どもたちを連れてインドネシアへ行く心を決めることもできたというのです。

その心を決めた数日後に、長女にこれまでと違う発作が起き、救急車で搬送していただきましたが、持ち直すことはできませんでした。親神様は、長女をこの世に生まれ出させて137日間の命で迎え取られました。137日間、あえて生まれ出させる必要があつたのだと思案しました。長女が出直してすぐに、実家の教会の父からジャカルタの下宿先に電話がかかってくる、帰ってこなくてよい、葬儀は教会の方でさせてもらうからお前は与えられた御用を全うするようにと伝えてきました。海外布教は決して楽なものではないという覚悟を決めろという思いを伝えてくれたのだと思ひました。

長女の葬儀を終えて、家内は3人の子供を連れてインドネシアへ来てくれました。家内の支えのおかげで、なんとか留学生生活を終えさせていただきました。おちばに帰らせていただきました。

おちばに帰って5年ほどすると、今度はフィリピン出向の御命をいただきました。フィリピンには、天理教フィリピン出張所という、おちばの拠点があります。英語もタガログ語も分からない私に何ができるのだろうと不安で

したが、親神様のお計らいだと思ひ直しました。家内は反対もせず、うんと領いていました。

フィリピンならではの出来事を2つお話ししますと、その当時、日本では東南アジアからの不法滞在者が大きな問題になり、フィリピンからのおちば帰参の団体にその人たちが紛れ込むことが度々出てきました。これではだめだと、おちば帰参団体の人選をしなさいいけない。大丈夫だと思つても、着いた途端にいなくなる。この人選は本当にしんどかったです。

もう1つは、当時フィリピンの若い女性は、ショーダンサーとして正式の6ヶ月の労働ビザで日本へ働きに行く人が多く、日本にいる間に日本人の男性と仲良くなって結婚する人もいました。女性はいったん帰国し、今度は配偶者ビザを申請する。そうすると大使館で拒否される。その日本人男性というのはお道の方であつたりとするわけで困つたと言つて出張所に相談に来られるのです。教えを伝えるとか、信仰を伝えるところ、そういう出張所本来の御用ではないのですが、フィリピンならではの御用かなと思ひ、2年間出向を務めさせていただきました。

おちばに戻ってきて14年が経ち、インドネシア出張所長の御命をいただきました。その御命をいただいた時に、しばらく考えて、おそらく神様はこういふふうに乗っておられるのかもしれない。それは、心構えは長女の出産から出直しを通して仕込んできた、出張所とはどういふ所なのかというのは、フィリピンでの御用を通して教えてきた。そして今、子供たちは、独り立ちできる時期になっていると仰せなのだ。ちょうど良い時期を待っていてくださったのだと思いが至りました。

この時の出向は、家内だけ連れて行きました。インドネシア出張所では、現地信者さんへの丹精、つなぎということに重きを置いて勤めさせてもらいました。現地の信者さんは、所属教会が日本にあります。でも、その教会から会長さんが1年に1回でも丹精をするというのは、なかなかできないという現状があるのです。丹精が行き届かない、できないまま切れてしまっている信者さんは多いです。この丹精の空白状態を少しでも埋めさせてもらいたい。そのお手伝いをさせてもらいたい。それが出張所の大きな役割なの

です。丹精の機会があれば、近くはそうですけども、遠くへも行かせてもらいました。

その中の1人で、ジャカルタから車で3時間のところにある町に住む男性は、ひどい糖尿病で右足の膝から下を切断されてしまい、心が折れていないか心配でしたので、おさづけの取り次ぎと様子を見に行かせてもらいました。この人は陽気な方で、足を切断した後も、その陽気さを失わずに私達が来るので待っていてくださり、行った我々が逆に元気をもらって帰るといような、そんな方でした。

私が地方出張で留守にした時は、家内が代わって行ってくれたのですが、私が行くようにと言ったわけではなく、自分たちの都合で行けないというのは申し訳ないという思いからでした。放っておけないと思うとすぐに動くという、そういう決断の速さは今も敵いません。家内は、小さい頃から苦労していますから、人をいたわるといふ気持ちは強いです。出張所では、運転手さん、夜警をしてくれる人、お手伝いさんを雇っていました。その人たちを雇っていた理由というのは、出張所周辺の出来事、情報、いろいろなこ

とをその人たちが教えてくれるからです。ですから、その人たちとのいい関係を維持していくということがとても大事なのです。これは家内の人をいたわる気持ちや心配りのおかげで、できたのだと思います。

「海外布教は夫婦で共に」と親心をかけていただき、人との巡り合いの中で育てていただき、今日まで通らせていただきました。親神様の大きなお計らいの中でお育ていただき、これが親神様、教祖の思召しに叶う道なら、どんなことがあっても喜んで通らせていただきます、これから先も海外布教に関わらせていただきますと、定めた心は今も変わっていません。その心が次の世代に引き継がれているということに親神様のお計らい、教祖のおみちびきを感じずにはいられないのです。

留学当時3歳だった長男は、現在インドネシア出張所長として家族と共に赴任をして、インドネシア布教の一端を担わせていただき、次男は、敷島大教会、台北心勇教会の2代会長として家族と共に台湾布教にお使いいただいています。そのことを思うと、その元は、家族一緒での現地生活にあったと

思います。さらにそうすれば、私と家内の縁が結ばれた時から親神様のお引き寄せであったのだと思えるのです。親神様の大きなお計らいにお礼を申し上げて、これからも海外布教に関わらせていただきたいと思います。

(文責：海外部員 鳥井悠加)

7 末の弟のまなざし

▼戸籍と現実のギャップ

明治7年の暮れか、8年の正月頃、佐吉(私には、ヒイヒイ爺さん)さんは、川合とよ(後の笠岡初代・上原さと)私にとつてヒイ婆さん)に、「おとよさん、すまんが、今日夕方に甥の笠原政太郎が、妹のイシを連れて、笠岡から大坂港に着くんやが、多分此の家が分らないで、長堀の通りを探し探し来るやろうから、あんた、まだ足が痛うて大変やろうと思うが、すまんが外に出て、そんな2人連れ気いつけておいてくれんか。笠岡の田舎から出て来るんで心配でかなわん」佐吉の言葉にとよは頷いてその日の昼過ぎあたりから鰻谷筋

の道に出て、人の流れを見ていた。佐吉の言う通り夕方それらしい2人連れを見つけてとよは備佐に請じ入れた。

三軒家あたりに港があつたとすれば、長堀通りを西から東へ来ることになり、備佐のある鰻谷筋に繋がるので、簡単な事であるが、それは大坂に住んでいる人にとつての話で遠く笠岡の田舎から出てくる政太郎君(後の上原佐助)にとつては、大変な事であつたと思う。

当時既に後の笠岡初代は、折井家の一人息子のおたすけを終えて、備佐に娘分として入っていた。娘分とは、許嫁(嫁)のようなもので、佐吉さんは、政太郎君が笠岡の家を畳んで大坂にくるといふ事で、既に密かに初代の実家には話を通して、勤め先の折井から、初代を備佐に引き取っていた。この娘でないと備佐はどんな跡取りが来ようとやっていけないと佐吉ヒイヒイ爺さんは、初代の信仰心に感じ入っていたのだと思う。

門脇君が椿教明さん(神田分教会長)から聴いた話として、ちよつと書いてみた。寄り道の寄り道みたいになつてしまつたけれど、上原家の信仰のありかたは佐吉と初代の絆が基本となつて

いるように私は思う。備佐の経営がなりましたたなくなつて、破産という事態で初代はじめ子供達は伊賀上野の川合家の籍に送付という事になるが、長女・光は佐吉の深謀遠慮で上原佐吉の籍に入つて居る。従つて上原家の血には光婆さんを通して、佐助・さとの遺伝子が連綿と流れて居る。私がヒイヒイ爺さん、ヒイ婆さんと書いたのは、戸籍という人間が作つた一つの決まりで現実を切つてしまつては、ならないと思うからである。

先日、愛媛県に公用で出向いた時、東の部内の愛媛分教会に参拝させて頂いた。会長さんからいろいろ話を聴いて、「この教会の二代会長を佐助先生が持たれていますよ」といって書類を見せて下さつた。「え！ヒイ爺さん、こんなところまでご苦労下さつてるんですか」と思わず口走つて、会長さんもちよつと変な顔されていた。笠岡の上原家に佐助さんの遺伝子は流れていないように思つておられる、教内全体にその思いがあるようである。東大教会が柴田先生に会長就任されて、上原さんと上原佐助の遺伝子が上原家の出所である笠岡にだけ残っている現状皆さん、しつかり認識して下さい。

第16回 大教会長杯 親善スポーツ大会開催 会長室

11月24日(日)大教会長杯親睦スポーツ大会でソフトボールを開催しました。東・西ブロック、福山、久松、上下・府中市から65人の老若男女が参加し、会場には80人近くが集まりました。結果は優勝…西・久松チーム、準優勝…福山チーム、3位…直轄A合同チーム、4位…直轄B合同チームでした。日曜日の午前中、楽しい和やかな時間を大勢で過ごしました。(会長室掛員 上原志郎)



親睦を深めましょう



天気の下、約80人程の人達が 楽しい時間を過ごした



楽しみながら白熱した試合

若人のつどい 開催

年祭準備委員会



上原志郎先生の信仰エピソード

12月1日、大教会で『若人のつどい』が開催された。これは、笠岡大教会教祖140年祭準備委員会が、年祭活動の一環として育成を目的に開いたもので、全ブロックから20代から40代の60人が参加した。

今回のテーマは、『Life is Journey』自分をもっと好きになる』。企画・運営は、若人のつどいチームが担当し、10ヶ月前より会議、検討を重ね当日に至った。



同世代スタッフによる体験談

午前中のプログラムは、インプットコースとアウトプットコースに分かれて実施された。両コースとも、講師(上原志郎先生)や同世代の信仰エピソードを聴く時間が設けられた。そして、自分を掘り下げ、自身にとって本当に大切なものに気付くためのワークが実施された。

午後からは、アトラクションが実施された。大教会長様夫妻をはじめ、若人のつどいチームや青年会が、ダンスやミニゲームなどステージを盛り上げた。

閉講式では、年祭活動後半の実践項目『毎日、喜び・感謝を声に出そう』



ステージ上での様々な演出

午後からは、アトラクションが実施された。大教会長様夫妻をはじめ、若人のつどいチームや青年会が、ダンスやミニゲームなどステージを盛り上げた。

閉講式では、年祭活動後半の実践項目『毎日、喜び・感謝を声に出そう』

▼ひろさと分教会 浅野 まゆみ
今回アウトプットコースに参加させて頂き、自分の気持ちとじっくり向き合うと共に、本当の幸せとは何か気づくことが出来ました。

講義の中で印象に残っているワークは「自分の幸せに気づこう」です。最大で最高の願いを叶えるために当たり

参加者の声

前のように今ある幸せを3つ失くすならどれを選びますか? と聞かれたとき、私は選べずにいました。私の最大で最高の願いはいつか家族や親戚みんなと楽しい海外旅行をすることです。

しかし当たり前前にいる家族、当たり前前に動く身体、当たり前前にある地球など、当たり前前にある幸せなくこの願いは叶えることはできません。そこで司会者の方からはどんなに最高の願いであっても当たり前前の幸せを失くすことにはできない、つまり当たり前前の幸せこそ本当の巨大な幸せなのだを教えて頂きました。そこで何気無く毎日論議で「水を飲めば水の味がする。」というフレーズを読んでいたのですが、その当たり前前が当たり前前にあること、それはとても素敵でありがたいことだとハッと気が付きました。またその当たり前前があることに気付き感謝できていなかったなと感じました。このことから私はこれから毎日、当たり前前の幸せがあることは親神様のおかげであり、感謝して通らせて頂きたいと思いました。

そして午後のプログラムではOJI小町と一緒にダンスもできてとても楽しかったです。また機会があれば是非一緒に踊りたいです!!



講話を振り返る

▼西村分教会 藤 本 久 美
 アウトプットコースを受講させて頂きました。
 隣の方と考えを伝え合う時間はありましたが、ほとんどが誰にも見せなくて良い、ただ自分の正直な思いを全て書き出すということだったので、人には言いにくい本当の気持ちも、紙に書き出して見て自覚することができました。



ワークに真剣に取り組む

今まで嫌な思いをしたこと、辛かったことなどは、消化できているように感じていましたが、書き出してみると、日頃の生活に紛れて気にならなくなっていただけで、仕方がないと諦めていた。
 たり、納得していないけどとりあえずしまっておいた思いがあったことを知りました。
 人に話すのは相手も嫌な気分になるかなと考えて話すを控えたり、言葉を選んだりしてしまいましたが、自分の気持ちを吐き出すだけなのは、アウトに包むこともなく、はっきり表現できて、結構すっきりしました。
 思えば、日頃、こんなにゆつくり自分の気持ちと向き合う時間は、持てなかつた気がします。
 最近はずいぶん話を聞いても、最後まで聞かずに途中で口を出して怒らせた、逆もありました。

そういう流れが続くと、怒るところでなくてもスイッチが入り、きつい口調になったりしていました。
 私が、今回の集いで分かったのは、時々心の空きスペースを整理して、次に入ってくるものを余裕を持って受け入れる準備をしておけば、自分にとって都合の良いことも、怒りやイライラで受けるのではなく、柔軟に受け入れられそうということでした。
 集いの後は気持ちにゆとりができ、家族の話を聞きながら、穏やかに返事をしていく私になれたような：気がします。

▼木津和分教会 丸 山 智 旬

今回、私は「インプットコース」を受講させて頂きました。今回のテーマ「自分をもっと好きになる」私自身、あまり自分の事が好きではないので今回の受講で何か得る事ができればと思いました。

プログラムの最初にワークを行い、その中で「私にとっての幸せとは？」と聞かれましたが、何を書いたらいいか分かりませんでした。ただ、その後の講話を聞かせて頂き、こうして毎日元気に生活出来る事が一つの幸



家族ぐるみで多数参加

せなんだと気付かせて頂きました。
 年祭まで残り1年ちよつとなりました。まだまだ、「自分をもっと好きになる」難しいことですが、自分なりに何かを探して来年の若人のつどいまでには新たな発見が出来たいな思っています。

十一月月次祭祭文

これの笠岡大教会の神床にお鎮まり下さいませ

親神天理王命の御前に 会長上原明勇 慎んで申し上げます

親神様には『月日にわにんけんはじめかけたのわ よふきゆさんがみたいゆへから』との思召から 人間とこの世界をお創造下されたばかりではなく天然自然のお働きと自由の御守護により陽気ぐらしへとお導き下さいませ事は誠に有難く勿体ない極みでございます 私共は朝夕に御礼申し上げますと共に 思召にお応えするべく 届かぬながらもたすけ一条の御用の上に努め励ませて頂いております

その中にも今日の吉日は 此れの教会の十一月の月次祭を執り行う日柄でございますので 只今からおつとめ奉仕人一同 明るく陽気に勇んで坐りづとめてをどりをつとめさせて頂きます 御前には時折寒さを感じる中 今日の日を楽しみに寄り集いました道の子供たちが 相共にお歌を唱和し 日頃の御高恩に改めて御礼申し上げ尚も変わらぬ親心にお縋りする状をご覧下さいまして 親神様にもお勇み下さいますようお願い申し上げます

さて今月は第三回目のようにぼく一斉活動日が各地で開催されました それぞれの会場で近くに住む教友が寄り集い お互いに信仰を深め勇ませあつて年祭活動に弾みをつける歩みを更に進めさせて頂きました

また本日は張間道男先生にお越し頂き『海外伝道講習会』を開催させて頂きます 海外で布教に従事された先生のお話を聞かせて頂き 日々の信仰生活の糧とし 教祖の世界だすけの思いに近づかせて頂きたいと存じます

何卒親神様には 届かぬながらも精一杯にたすけ一条に邁進する皆の誠実の心をお受取り下さいまして 万たすけの上に自由の御守護を賜り 一日も早く陽気づくめの世の状が実現しますようお導きの程を 一同と共に慎んでお願い申し上げます

立教百八十七年十一月月次祭 祭典役割表

祭主	大教会長様
	上原 浩
扨者	浅野 明教
	海外伝道講習会
講話	一月講話
	世話人・板倉知幸先生
指図方	赤木 素志
	岡崎 治喜
	田中 隆之
賛者	門脇 元教
	横山 逸郎
	岡崎 真一
役割区分	坐り勤
	前半
	後半
地方	田中 隆之
	中村 道徳
	内海 史郎
おつとめをどり	大教会長様
	前会長様
	上原 繁道
笛	田中 浩
	上原 浩
	田中 浩
ちゃんぽん	田中 浩
	田中 浩
	田中 浩
拍子木	田中 浩
	田中 浩
	田中 浩
太鼓	田中 浩
	田中 浩
	田中 浩
すりがね	田中 浩
	田中 浩
	田中 浩
小鼓	田中 浩
	田中 浩
	田中 浩
琴	田中 浩
	田中 浩
	田中 浩
三味線	田中 浩
	田中 浩
	田中 浩
胡弓	田中 浩
	田中 浩
	田中 浩

大教会だより

◎本 months 次祭 登殿参列

立教187年11月26日登殿

雲	瑞	多	簸	天	神	陶
東	北	古	ノ	場	免	山
		浦	川	山		
三	福	余	津	仙	稻	上
代	島	村	森	田	月	原
温	泰	朋	之	公	稔	繁
生	道	元		男	恵	次



計報

三島陽祐さん

葦沼分教会2代会長

11月12日出直されました。
享年 99才



今年9月、上級教会の秋の霊祭を勤めた後、本家の墓掃除兼墓参りに行きました。私方の本家は「ポツンと一軒家」に出られそうな山奥にありましたが今は居を移しておりその家は廃屋状態になっています。

従兄弟である本家の兄が自分達のルーツを残しておきたいとの思いと、一昨年出直した母親を故郷に帰して鎮めてやりたいとの思いもあったのか、旧・本家の一画に父母の墓を建て墓の周囲には猪や鹿などの動物が荒らさないう様、鉄の柵を設置しました。

その日は9月中旬とは言えまだまだ暑さ厳しい日でした。本家の兄と私達夫婦と3人で、草刈り機・チェーンソー・鎌・レーキ等持参し1時間半余りの作業を終え、墓参りをして帰った時は夕方になっていました。すぐにシャワーを浴びて、夕づとめを勤めた後、久々に本家の兄と一献傾けました。昔話に花が咲きましたが、私は早朝からの仕事の為9時には床に入りました。その後兄と妻はルーツ等、話が沢山出

来た様で兄も大変喜んでくれました。きっと御霊様も喜んで下さったのだと思います、私達も本当に清々しい気持ちになりました。

その1週間後大阪に出ている長男が帰省し(2日ほどでしたが)その時の話になり、僕も本家の墓にお参りしたいと言いつつ、次の日に連れて行きました、向かう車の中でも色々先祖の話など多岐にわたり話しをする事ができ、私も妻も嬉しく3人で参拝させてもらいました。

又その数日後、今度は次男が帰って来てその話になり、色々話す中に「そうか、兄ちゃんがね、やっぱり兄ちゃんには偉いな。」とそんな事を言うような子ではないのに、ビックリしました。兄弟が理解し合い助け合いながら歩んでくれればネ、それが私達親の願いだなと話した事です。

神様はきょうだいがいかに立て合い助け合いをする事を常にお望み下されているとお聞かせ頂きます。世界中、どうぞ今の状況を一日も早く打開して、お望み下さる状況になる様、願わずにはおれないぞ!と改めて肝に銘じながら!ペンを置きます
(K・T)

詰所からのお願い

詰所での宿泊・喫食について

- ・詰所で宿泊・喫食される場合は、「教会名・代表者名・泊数・食数」を、2日前までには、必ず詰所へご連絡ください。
- ・食事をしない(宿泊のみの)場合でも、2日前には申し込みをして下さるようお願い致します。

部内教会・信者に徹底願います。

笠岡大教会 年間行事 予定表

部会 月	婦 人 会	青 年 会	少 年 会	学 生 会 学生担当委員会
1	28 婦人会創立の日		27 年頭幹部会	
2	23 午前 直轄委員長・委員研修会 午後 婦人会総会おつとめ練習			21 学生層育成者講習会
3	2 ホットテラス		23 笠岡むつみ鼓笛 合同練習会	4~8 学生生徒修養会大学の部 10~12 学生生徒修養会高校卒業生コース 27・28 春学(春の学生おぢばがえり)
4	19 本部 婦人会総会		1 笠岡団 おつとめまなび総会	11 又は18 親里管内学校 新入生歓迎会
5			21 縦の伝導講習会	
6	3 午前 婦人会おつとめ練習 22 笠岡支部第26回婦人会総会	29 青年会ひのきしん団参	21 てっちゃんシアター	
7			21 てっちゃんシアター 27 ~ 3 21~23 または 22~24 サマーキャンプ(さんさいの里 & わかぎの集い)	中旬 学生生徒修養会 高校の部 24 夏学(夏の学習指導)
8				
9	23 委員長後継者講習会		21 てっちゃんシアター	
10		25 本部青年会総会		
11	23 こかん様に続く会	8 おやさとふしん 青年会ひのきしん隊入隊 29 青年会笠岡分会総会 29・30 総会記念行事(大人キャンプ)		30 秋学(秋の学生会の日)
12			21 てっちゃんシアター	中旬 高校受験勉強会
備 考	<ul style="list-style-type: none"> 毎月2日 ひまわり会 例会 1月・8月はなし 毎月3日 婦人会 例会 1月・8月はなし 毎月20日 女子青年 伏せ込みひのきしん 	<ul style="list-style-type: none"> ◎オンライン教理勉強会(適時) ◎草刈り講習会(随時) 		

立教188年(令和7年/2025年)

部会 月	全体行事 その他	ひのきしん	布教部	海外部
1	5~18 直轄教会春季大祭参拝 20 年頭会議	25・26 春季大祭詰所受入	20 教会長講習会 (年頭会議に引続き14時~)	
2	3~15 部内巡教	毎月25日16時 毎月伏せ込みひのきしん(西礼拝場) (5月・10月は除く 内容: おつとめ・境内地ひのきしん)		
3	3~15 部内巡教 27・28 修養科修了講習会(*)	26・27 春学詰所受入		広島平和公園にをいがけ (外国語パンフレット配布)
4	29 全教一斉ひのきしんデー	18・19 教祖ご誕生祭詰所受入		6 アフリカ孤児支援バザー桜祭り
5	4 大教会長杯親睦スポーツ大会 5~18 直轄教会定期巡教 25/26 別席・伏せ込みひのきしん団参 (眞明組統一活動として) 28 雅楽講習会			
6	27・28 修養科修了講習会(*)	----- 草刈り、剪定 1~15 本部食堂(島根ブロック)		
7	27 ~ こどもおぢばがえり 3	こどもおぢばがえり詰所受入 前期: 7/26昼~7/29昼 中期: 7/29昼~8/1昼 後期: 8/1昼~8/4朝		6・7 英語講習会
8		草刈り	1~30 全教会布教推進月間 21 布教推進講習会 22 布教部にをいがけ実動日 (秋季霊祭後、実動予定) 23 笠岡にをいがけデー 28~30 全教一斉にをいがけデー	
9	9月~12月(日): 若人のつどい 27・28 修養科修了講習会(*)			
10	5~18 直轄教会秋季大祭参拝 25/26 別席・伏せ込みひのきしん団参 (眞明組統一活動として) 28 雅楽講習会	3 草刈り、剪定 神殿障子張替 25・26 秋季大祭詰所受入	祭典講話(案) 1月 世話人・板倉知幸先生 2月 ㊦学生層育成者講習会 3月 中村道徳 4月 武内正美 5月 ㊧縦の伝道講習会 6月 森本忠善 7月 浅野明教 8月 上原志郎 9月 ㊨布教推進講習会 10月 大教会長様 11月 ㊩海外伝道講習会 12月 門脇元教	
11		16~30 本部食堂(上府ブロック)		21 広島平和公園にをいがけ (外国語パンフレット配布) 海外伝道講習会
12	7 若人の集い 20 心定め提出 27・28 修養科修了講習会(*)	22 年末大掃除 27 詰所餅搗		
備考	◎役員部長会 毎月20日 午後 0:30 ◎直轄教会長連絡会 毎月20日 午後 2:00 ●雅楽会練習 毎月21日 午前8時 (*)修養科修了講習会の際は、育成掛の講話あり	註: ブロックの区分けは 東: 岡山県以东の直轄教会 とその部内教会 西: 広島県以西の直轄教会 とその部内教会 上府: 上下、府中市		◎英語クラブ (毎月22日19時~20時半)

立教188年 学生生徒修養会 大学の部

おそばにお引き寄せたいという学生達が、教えを学び、信仰の喜びを味わい、普段から信仰に基づいた生活ができるようになることを目指し、学生生徒修養会 大学の部を開催いたします。

募集要項

- ▽期間 …… 令和7年3月4日(火)～3月8日(土)(4泊5日)
- ▽受講対象 …… ①令和6年12月25日現在、大学・短期大学・大学院・専門学校
高等専門学校(4年生以上)に在学している者。
②全期間(4泊5日)を通して受講できる者。
外国人語の通訳、翻訳の対応はできません。
プログラムへの参加が著しく困難な方は受講をお断りする場合があります。
- ▽募集人員 …… 700名
※定員に達した場合、締め切らせていただきます。
- ▽内容 …… 講話、グループワークなど
※期間中に別席日は設けておりません。3月4日集合前に午前席を運ばれる場合はできるだけ早い時間に別席の受付をお願いします。
- ▽集合 …… 3月4日 午前9時45分～10時15分
詰所に受付票を受け取り、受付票に記載されている宿舎に集合してください。
- ▽解散 …… 3月8日 午後2時頃(予定)
詰所に受付票を受け取り、受付票に記載されている宿舎に集合してください。
- ▽受講料 …… 10,000円 詰所(直属学生担当委員会)に納めてください。
そのほか交通費などは別途必要になります。

申し込み

- ▽申込方法 …… 以下の書類を調え、直属教会長の署名・捺印をいただいた後、学生担当委員会事務局に申し込んでください。
・受講願書1通(参加にあたっては、必ず保護者の同意を得てください)
※本庄より返信用封筒は不要です。受講にあたっての詳細および必要事項は2月15日以降にHappist(大学の部/紹介ページ)でご確認ください。
- ▽申込期間 …… 令和6年12月25日～令和7年2月15日
- ※期間中の映像や写真は、印刷物及びインターネットを通じて広報に使用することがありますのでご了承ください。
- ※本人の意志を確認の上、お申し込みください。
- ※受講願書は学生担当委員会事務局、直属学生担当委員会、各教務支庁にあります。
Happistでも願書のダウンロード、必要事項の確認ができます。<https://happist.net>



問い合わせ先

天理市守目堂町213-4 おやさこやかた真南棟3階 学生担当委員会事務局
《郵便》〒632-8790 天理郵便局私書箱1号
《電話》0743-63-2489(学生担当委員会事務局直通) / 《FAX》0743-62-5780

立教188年 学生生徒修養会 高校卒業生コース

高校卒業生が進学や就職などそれぞれの道へと進むこの時期に、教えを学び、同世代の繋がりを深めることは、その後の信仰生活の上で有意義なことです。

卒業後、どのような環境においても、おそば、教会に繋がりが、教えを拠り所とした生活を送ることができるよう、以下の要項で学生生徒修養会 高校卒業生コースを開催いたします。

募集要項

- ▽期間 …… 令和7年3月10日(月)～3月12日(水)(2泊3日)
- ▽受講対象 …… ①令和6年度高等学校卒業予定者
※卒業後の進路は問いません。
※天理高等学校第一部 第二部の卒業予定者も受講可能です。
②全期間を通して受講できる者
外国人語の通訳、翻訳の対応はできません。
プログラムへの参加が著しく困難な方は受講をお断りする場合があります。
- ▽募集人員 …… 400名
※定員に達した場合、締め切らせていただきます。
- ▽内容 …… 講話、グループワーク、お楽しみ行事など
※期間中に別席日は設けておりません。3月10日集合前に午前席を運ばれる場合はできるだけ早い時間に別席の受付をお願いします。
- ▽集合 …… 3月10日 午前9時45分～10時15分
詰所に受付票を受け取り、受付票に記載されている宿舎に集合してください。
- ▽解散 …… 3月12日 午後2時30分頃(予定)
詰所に受付票を受け取り、受付票に記載されている宿舎に集合してください。
- ▽受講料 …… 5,000円 詰所(直属学生担当委員会)に納めてください。
そのほか交通費などは別途必要になります。

申し込み

- ▽申込方法 …… 以下の書類を調え、直属教会長の署名・捺印をいただいた後、学生担当委員会事務局に申し込んでください。
・受講願書1通
※本庄より返信用封筒は不要です。受講にあたっての詳細および必要事項は2月15日以降にHappist(卒業生コース/紹介ページ)でご確認ください。
- ▽申込期間 …… 令和6年12月25日～令和7年2月15日
- ※期間中の映像や写真は、印刷物及びインターネットを通じて広報に使用することがありますのでご了承ください。
- ※本人の意志を確認の上、お申し込みください。
- ※受講願書は学生担当委員会事務局、直属学生担当委員会、各教務支庁にあります。
Happistでも願書のダウンロード、必要事項の確認ができます。<https://happist.net>



問い合わせ先

天理市守目堂町213-4 おやさこやかた真南棟3階 学生担当委員会事務局
《郵便》〒632-8790 天理郵便局私書箱1号
《電話》0743-63-2489(学生担当委員会事務局直通) / FAX 0743-62-5780